



岩 淵 功 一 /

## 多様性との対話

### ダイバーシティ推進が見えなくするもの

一般に前向きな意味で使われる「ダイバーシティ推進」が、マイノリティの主張を無力化してしまうことを明快に書いた本。インターセクショナルリティやマジョリティ特権についての重要な論考を収録。



森 山 至 貴 /

## 女性を閉じ込める「ずるい言葉」

女性に向けられる何気ない一言が、女性の心や行動を縛っていることをコンパクトに解説。実際にこういう言葉に出くわした時に、知っておくと安心な1冊。



坂野 徹 /  
縄文人と弥生人

「縄文人は狩猟民でソース顔」、「弥生人は農耕民でしょうゆ顔」、「アイヌは縄文の伝統を色濃く受け継いだ人々」などなど、すっかり実体として語られる「縄文人」。ロマン漂うこの言葉は、アイヌにとってはちょっと迷惑な使われ方をする。そのなりたちを知れば迷惑も軽減する？



ロビン・ディアンジェロ (著),  
貴堂嘉之監訳, 上田勢子訳 /  
ホワイト・フラジリティ  
私たちはなぜレイシズムに向き合えないのか？

マジョリティはどうしたら変われるのか。マジョリティがマジョリティ性を指摘されたときに起こる拒否反応について、豊富な事例と理論によって解説。

金明秀 /

## レイシャルハラスメントQ&A

職場・学校での人種・民族的嫌がらせを防止する

セクハラやパワハラは知っていても、レイハラは聞いたことがない。日本には民族や人種の多様性は「ない」ことになっているが、ハラスメントは「ある」という奇妙な現実。レイシャルハラスメントの考え方や事例、対策をまとめたわかりやすくハンディな1冊。



北原モコットウナシ  
選書コメント

小坂井敏晶 /

## 増補 民族という虚構

「科学的=客観的」と思われがちな「人種」や「民族」の概念も、その言葉を作った人々の主観によってコロコロ変わってきた。しかし、根拠はあいまいでも、その言葉が使われた歴史によって生じた問題はある。



北原モコットウナシ  
選書コメント



佐藤裕 /  
新版 差別論：偏見理論批判

社会学の立場から差別の定義を丁寧に行い、差別と人権保障を分けて論じるなど、読み進めるうちに問題が整理されていく。差別の三者構造とワクチンなど、差別を理解し解消するために知っておきたいポイントがちりばめられている。



清水晶子・ハン・トンヒョン  
・飯野由里子 /  
ポリテイカル・コレクトネスからどこへ

フェミニズム、民族的マイノリティ、障害の研究者が鼎談の形で専門的な話題をわかりやすく取り上げる。「心のバリアフリー」など、近年の取組みの良い点と見落とししについて、マジョリティが求める理想的な「モデルマイノリティ」など、重要な論点多数。



デラルド・ウィン・スー(著)、  
マイクロアグレッション研究会(訳) /  
日常生活に埋め込まれた  
マイクロアグレッション

人種、ジェンダー、性的指向、マイノリティに向けられる無意識の差別

筆者自身の経験も交え、人種・ジェンダーにまつわる  
マイクロアグレッションのタイプ、起こり方、その被害  
の大きさと解消の仕方が丁寧に解説されている。



北村英哉・唐沢 穰(編) /  
偏見や差別はなぜ起こる？  
心理メカニズムの解明と現象の分析

社会心理学の視点で、高齢者や犯罪被害者・加害者をも  
含む多様な人々への偏見形成などを解説。公正世界  
信念、現代的レイシズムなど重要な概念の解説を含む。



キム・ジヘ(著)、尹怡景(訳)／  
差別はたいてい悪意のない人がする  
見えない排除に気づくための10章

韓国でのフェミニズム、マイノリティ差別の課題は、  
日本と共通するところが多い。差別があると聞くと反  
論したくなる心理、「逆差別」の主張を理解できる。



植田晃次, 山下仁(編著)／  
「共生」の内実  
批判的社会言語学からの問いかけ

「共生」という聞こえの良い言葉が、問題を「改善した」  
と感じさせてしまうこと、日本で進められている共生  
施策の問題、差別を差別と認めない人々について知る  
ことができる。

風巻浩、金迅野(著)  
金井真紀(イラスト)／  
ヘイトをのりこえる教室  
ともに生きるためのレッスン



北原モコットウナシ  
選書コメント

在日コリアンヘイトに向き合い続けてきた、男性2人の経験と考察の記。立場によって風景の見え方が違うこと、レイシズム、マジョリティ特権など重要なトピックを網羅。日本「から」の移民史を通して排外主義を見つめ直す視点は、大いに考えさせられる。



北原モコットウナシ  
選書コメント